人々に笑顔をもたらす交通社会をめざして

沖縄を取り巻く課題

1. 低い公共交通利用!

沖縄県ではバスの利用者が減ってきています。その一方で、自動車の台数は増えています。また、全国では公共交通を利用する人が3割もいるのに、沖縄はたったの3%です。このままバスの利用者が減少すると、バスがなくなるかもしれません。

2. たくさん訪れる観光客! 沖縄県では毎年たくさんの観光客が訪れており、今後も増えることが予想されています。たくさんの人を目的地まで運ぶ手段としてバス等公共交通が最も適しています。すべての人が利用しやすい環境を整備していくことが必要です。 3. お年寄りの事故増加! 沖縄県では65歳以上の高齢者ドライバーによる交通事故が増えています。さらに高齢者人口は今後も増加します。お年寄りが自動車を使わないで、バスを利用し安全に出かけられる社会環境が必要です。

統計データの出典:運輸要覧、沖縄統計年鑑、旅客地域流動調査(H21)、沖縄入域観光客統計概況、沖縄県交通白書



より良くするためのサイクル

バスの利便性を向上させて多くの人がバス利用へ転換することで渋滞が緩和し、更にバスが使いや すくなります。

> バスを使いやすくする (利便性の向上)

渋滞の緩和 (自動車依存からの脱却)

バスへの転換

使いやすいバスってなに?

- ①定時・速達性のあるバス (時刻表通り来てくれる、遅れない)
- ②利便性のあるバス(運行本数がたくさん、行きたい場所にいける)
- ③安全性・快適性のあるバス(ミスのないやさしい運転、乗り換えがかんたん)
- ④シンボル性のあるバス (かっこいい、乗ってみたい)

バスの自動運転技術を取り入れていくことで、すべての人が使いやすいバスをめざします。

こおけるバスの自動運転実

なぜバス自動運転の実験を行っているの?

- 内閣府では、「人々に笑顔をもたらす交通社会を目指して」、交通事故や渋滞を減らし、すべての人にやさ しい交通社会の実現に向けた取組の一つとして、自動走行技術の研究開発を行っています。公共交通が脆弱 な沖縄においては、急速に技術開発が進んでいる自動運転技術をバスへ導入し、公共交通ネットワークの再 【石垣島のバス輸送人員の変化】 単位:千人 編・活性化を図ることが重要です。
- こうした中、石垣島では、近年観光客の急増もあり(バス利用者も 2倍に増加)、住民にも観光客にも使いやすい交通手段の確保が特 に重要な課題となっていることから、離島が抱える交通問題の解決 に向けて、バス自動運転の実証実験を実施することとしました。



出典:運輸要覧

どのような実験をするの?

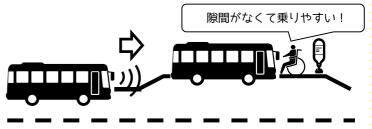
ハンドルとアクセルをコンピューターが自動で制御した状態で、新石垣空港から離島ターミナルま での間を走ります。ただし、衝突などの危険があるときは、ドライバーが運転を行います。

自動走行実験で確認する技術の内容

- ①あらかじめ設定された走行軌跡で車線維持
- ②道路上に停車車両がある場合、自動的に車線変更
- ③あらかじめ設定された目標制限速度で走行を自動制御
- ④バス停で停車の際、縁石と約10cmの距離で密着し停止
- ⑤先行車が低速で走行している場合、自動的に車間距離制御
- ⑥交差点での急ブレーキを防止するため、信号情報を活用し て速度抑制制御







沖縄でのバス自動運転実証実験の今後の予定

- 今回の石垣島やすでに実験が終了した南城市での実験を第1ステップとし、段階を踏みながら技術開 発を進めていきます。
- 平成29年度中に第2ステップとして、「自動運転制御の安定性・信頼性向上や車内転倒事故の減少、 乗り心地改善等に向けた検証」を、第3ステップとして、「速達性や利便性等の実現のための総合 的検証」を行っていく予定です。

お問い合わせ先

TEL: (03) 6257-1665 担当:普天間、玉盛 内閣府沖縄振興局